□議員名：河野　朋子

1　公民館について

論点	第１次総合計画における公民館の位置づけと第２次総合計画における位置づけはどのような違いがあるか。
回答	第１次では公民館は生涯学習機会の提供の場であったが、この間、社会教育が従来の個の確立に重点を置いた学びから、連帯感の醸成や地域課題の解決につながる学びを重視するものへ変容したため、第２次では人づくりを地域づくりにつなげていくこととなっている。

論点	主催講座が個人ニーズのものから、地域課題に対応したものに変わっていくということだが、講座の参加者が減るのではないか。
回答	趣味的な講座が全くなくなっていっているわけではないし、地域課題に即したものを仕組んでいくということなので、減少していくといった影響はそれほどないのではないか。

論点	公民館を核として地域づくり人づくりということだが、その中心的な役割は公民館長が担うということか。
回答	館長職は一層の重責を担うことになり、選任等に際し、行政経験豊かな市職員ＯＢや学校との連携にノウハウを持っている教職員のＯＢなど人間性を重視して、慎重に人選していきたい。

論点	公民館クラブのあり方も５年前に「地域社会の文化、教養及び福祉に向上に寄与すること」としたが、クラブ継続の現状はどうか。
回答	５年前に不安や抵抗感はあったが、今各クラブの活動等について評価をしている中で、「自分たちが学んだことを学校や講座の中で役立っている」という報告を受けている。

論点	一部のクラブでは、草抜きなどが本当に学習成果による地域貢献なのかという疑問が出ているがどう対応するのか。

回答	公民館クラブの活動内容によっては、うまく具体的に貢献の場がないクラブもあると聞いている。そのようなクラブについてはこれから公民館長ともしっかり相談して進めていってほしい。

２　学校の適正規模、適正配置について

論点	「学校の適正規模、適正配置基本方針」は平成１９年策定で１０年以上たつが、これまでに見直しは行われたか、今後見直しの予定は。
回答	これまで見直しは行っていない。また、この基本方針で定めている内容は、今の児童生徒数から見ても現時点では変える必要はないと考えている。

論点	市内小学校全学年７２のうち３８がクラス替えができない、つまり基本方針でいう「適正ではない」状態だが、どうか。
回答	学年１クラスの小規模校に該当した際に、中長期的な視点で過小規模校に移行する時期などを捉え、適正配置を行うと方針にある。過小規模校に該当した時には５年間を継続した場合に短期的な視点で適正配置を行うとなっている。

論点	津布田小学校は現在すでに複式学級があり、６年後は１学年が１人になる可能性もあるので、早急な対応が必要ではないか。
回答	複式学級が始まって５年目になるので、基本方針に基づいて検討を開始していきたい。結論ありきではなく、保護者や地域住民などと十分に協議して慎重に進めていきたい。

論点	平成２４年に小中連携校となった厚陽小学校は、６年後に全学年１桁の児童数となるがどのような認識か。
回答	当時はこれだけ激減して複式の可能性が出てくるとは、予測されていなかった。基本方針に、小中一貫校で複式学級が出現した場合の取り扱いについて定めていないので、今後、検討しなければいけないと考えている。

論点	１０年以上前の基本方針は現状とずれが出ているので、見直しをして、市の計画の中に入れて実行していくべきと思うがどうか。
回答	学校適正規模適正配置の計画が、策定当初から１０年たち、時代の流れの中で変わるべきであるという指摘を受けた。市長部局として、総合教育会議の中で今後、教育委員会ともよく話していきたい。